



# カーリングって奥が深い



信毎こども記者クラブは昨年12月、取材教室「体験！軽井沢カーリング」を、北佐久郡軽井沢町の軽井沢アイスパークで開きました。試合の観戦、体験、選手へのインタビューを通して、カーリングの奥深さを知りました。2018年の韓国・平昌オリンピックも楽しみです。

## 小山飛鳥記者 長野市5年



軽井沢国際カーリング選手権の準々決勝の試合を観戦しました。アイスパークの中には6レーンあって、準々決勝の4試合を同時に見る事ができました。顔や手にフラッグシールをはって楽しく応えんしました。一番応えんしたのはSC軽井沢クラブです。残念ながら負けてしまいましたが、これからもSC軽井沢を応援したいです。

## 小沼良樹記者 長野市5年



ほくは、カーリングの試合を見るのははじめてだったけれど、ラジオで解説を聞いたりして、だんだんルールが分かるようになりました。SC軽井沢クラブはカナダのチームとたたかいました。カナダのチームは、とても強いチームでした。今回の試合では負けてしまったけど、次の試合ではがんばってほしいです。

## 石川茉優記者 松本市4年



カーリングをやって、とくにむずかしかったのは、ストーンをなげてハウスの真ん中に近づけることです。力かげんは、強すぎるとハウスの外にいつてしまつて、弱すぎるとハウスの手前で止まってしまう。ブラシをかけるのには二つの理由があります。一つ目はすべりくあいをちょうせいするため、二つ目は曲がり方をちょうせいするためです。

## 音琴光里記者 松本市4年



カーリングでは、チームワークがとても大切です。4人が試合状況によって話し合い、作戦をたてていきます。この時、先の一投一投を読む力が必要です。ほかにも大切なことがあると、スウェーデンチームの人から聞きました。それは、カーリングを楽しんで試合をすることでした。私はカーリングを楽しめて世界一になってすごいと思いました。カーリングは、チーム4人で作戦をそのつど考えるゲームのようところが、選手がひきつけられるみかだと思いました。

## 岩波理咲記者 松本市1年



カーリングを体験しました。カーリングじょうは6どぐらいで氷はマイナス4どぐらいだそうです。あまりさむくありませんでした。ねらったとおりにはぜんぜんなげれませんでした。でも楽しかったです。わたしのすんでいる松本市にもカーリングじょうができてほしいです。



## 青柳里佳記者 長野市3年



カーリング体験をしました。心の中のこったのは、転ぶ練習です。後ろに転ぶ時は、おへそを見るように丸くなります。氷の上で、すべったり、ごろごろしたりするのが、おもしろかったです。ストーンをまん中に入れる練習で、さいしょは強すぎてアウトになってしまいましたが、2回目は、ゆっくりゆっくり歩くぐらいですべらせたなら、ちょうどまん中にとまったのでとてもうれしかったです。

## 伊野翔真記者 茅野市4年



リードのニクラス・エディンさんは、1998年の長野オリンピックを見て、カーリングを始めたそうです。長野県に住んでいるほくはとともうれしくなりました。カーリング人口をふやすにはどうしたらよいか、選手に質問しました。すると、「オリンピックでメダルを取るとその競技の人気が出るので、それがいい方法」と教えてくれました。日本でも、もっと普及してみんなが楽しめるスポーツになってもらいたいと思います。

## 小関すず記者 御代田町4年



カーリングをはじめたのは、4人とともにつづつとに始めたそうです。14才が1人、12才が2人、7才が1人でした。みんなちがうときに始めたのに、心が一つになれば、上位に入って喜び合えると分かりました。みんなの力、気持ちが一つになれば勝てると思いました。

## 児玉彩月記者 飯山市2年



しつもんしたことは、小さいころに、何にきょうみがあつたかです。答えは、サッカーや野球などです。体を動かすスポーツが好きだったんだなあと思いました。カーリングをやっていて、いいと思ったことは、体をきたえてアスリートの体になって、体が強くなったのでいいと思うと、答えてくれました。

## 島崎晃太郎記者 軽井沢町1年



インタビューをしたせんしゅは、ぜんいで4人でした。「カーリングは、ゴルフやりくじょうをやってるとうまくなるよ」とおしえてくれました。インタビューのあとに、「いいしつもんです。ありがとう」といってくれて、うれしかったです。



軽井沢国際カーリング選手権に出場した北海道銀行の小笠原歩選手たちにもインタビュー。この後、優勝しました

2015年世界選手権1位のスウェーデンチームにインタビュー